

令和5年度 全国学力・学習状況調査における 香美町の調査結果のまとめ(概要)

1 調査の概要 <P1>

2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

- ① 小学校に関する状況 <P1>
- ② 中学校に関する状況 <P2>
- ③ 教科ごとの調査の状況 <P2~P3>

(2) 教科ごとの状況及び課題が見られた「問い」

- ① 小学校国語 <P4~P5>
- ② 小学校算数 <P6~P7>
- ③ 中学校国語 <P8>
- ④ 中学校数学 <P9~P10>
- ⑤ 中学校英語 <P11~P14>

(3) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

- ① 学校運営に関する取組状況について <P15・P16>
- ② これまでの回答状況の変化から <P17~P23>
- ③ PC・タブレットなどのICT機器の活用について <P24・P25>
- ④ 英語に関する状況について <P26・P27>

(4) 質問紙と正答率のクロス分析の状況から

- ① 「主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組」と正答率の状況 <P28>
- ② 「読書時間」と正答率の状況 <P29>
- ③ 「家庭の蔵書数」と正答率の状況 <P30>
- ④ 「自己有用感」と正答率の状況 <P31>
- ⑤ 「ふるさと意識」と正答率の状況 <P32>
- ⑥ 「新聞を読むこと」と正答率の状況 <P33>
- ⑦ 「家庭学習」と正答率の状況 <P34>
- ⑧ 「ほめる指導」と正答率の状況 <P35>

3 今後の取組の方向性について <P36・P37>

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 令和5年4月18日(火)

(3) 調査実施校数及び人数

◇小学校6年生：10校 129人

◇中学校3年生：3校 125人



(4) 調査内容

① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記のアとイを一体的に問う。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査

イ 学校に対する調査

※中学校英語「話すこと」調査及び児童生徒質問紙調査(一部)について、児童生徒が活用するICT端末等を用いたオンライン方式により実施。

2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

【調査結果の分析の基準】

全国(公立)平均正答率を基準とした時の割合	全国(公立)や兵庫県(公立)と比較した時の表現
+5%以上	上回る
±5%内	同程度
-5%以下	下回る

① 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	下回る	下回る
算数	下回る	下回る

② 中学校に関する状況

教 科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国 語	同程度	同程度
数 学	同程度	下回る
英 語	同程度	同程度

※全国(公立)、兵庫県(公立)とは、参加した国公私立学校のうち、公立学校を対象としていることを示す。(以下、全国、兵庫県と言う。)

③ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】

◆小学校◆

(国語)

- 原因と結果など情報と情報との関係について理解したり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することはできている。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- ▼ 無解答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町は同じ傾向にあるが、無解答率が10%を超えている「問い」は、全国は一問、兵庫県は二問、香美町は五問ある。
- ▼ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるなど、記述式で解答を求める問いに課題がある。

(算数)

- 数と計算の領域で()を用いた式や、加法と乗法の混合した式、また(2位数)÷(1位数)の筆算などについて理解することができている。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- ▼ 無解答率が10%を超えている「問い」については、全国、兵庫県、香美町とも同じ傾向にあるが、全国、兵庫県は一問、香美町は二問ある。
- ▼ 学習指導要領の図形領域の理解に課題がある。



◆中学校◆

(国語)

- ◎ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 各問いの平均正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 全国、兵庫県で無解答率が10%を超えている「問い」は四問あり、香美町は三問である。
- ▼ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかに課題がある。

(数学)

- 数と整式の乗法の計算やデータの活用の領域で累積度数や四分位範囲の意味など概ね理解できている。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである
- 全国、兵庫県で無解答率が10%を超えている「問い」は、七問あるが、香美町は五問である。
- ▼ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することなど、思考、判断、表現の観点の問いに課題がある。

(英語)

- ◎ 学習指導要領の領域別では、「聞くこと」の「問い」は概ねできている。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じであるが、全国、兵庫県よりもやや上回っている。
- 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域で全国、兵庫県、香美町とも無解答率が10%を超えている「問い」は三問あり、同一の「問い」である。
- ▼ 「話すこと」(やり取り)の領域で平均正答率が低い傾向は、全国、香美町ともほぼ同じであるが、特に社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかに課題がある。



(2) 教科ごとの状況及び課題が見られた「問い」

「良好と考えられる項目」及び「特に課題と考えられる項目」について総括するとともに、「平均正答率が30%以下」かつ「無回答率が10%以上」の「問い」並びに正答率が10%台の「問い」について分析を試みた。

①小学校 国語

【良好と考えられる項目】

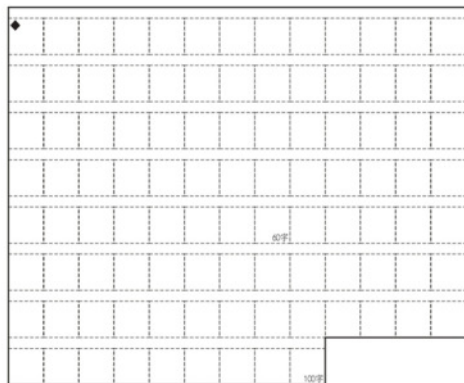
◎ 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。(大問1の一) 【知識及び技能】

◎ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができること。(大問1の三) 【知識及び技能】

【特に課題と考えられる項目】

▼ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができること。大問1の二) 【思考・判断・表現 B書くこと】

	正答率が30%以下	無回答率が10%以上	領域等
1-2	○	○	思考・判断・表現等(書くこと)



※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

【カード④】

7月20日

[農家の石山さんのお話]

- ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

[学校でできる解決方法]

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

(条件)
○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

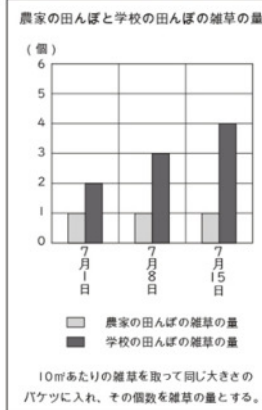
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア**い**が**い**に雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと**い**くらべてみました。う**き**かんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書くこととしています。あなたが川村さんなら、どのように書きましますか。あとの条件に合わせて書きまします。

に学校の米作りの
に入る内容を

<1-二>

正答例

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

解答の状況

- 誤答率が最も高いのは、【カード④】から分かる学校の米作りの問題点と、【カード⑤】を基にした問題点の解決方法を書いているが、【川村さんの文章】のグラフから分かる学校の米作りの問題点は書いていない場合である。
- 全国や兵庫県の平均正答率と比較すると約9%程度下回る。
- 無回答率は約13%である。

改善に向けて考えられる方策等

- 必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導することが効果的である。
- 書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの学習活動を充実させることが重要である。



②小学校 算数

【良好と考えられる項目】

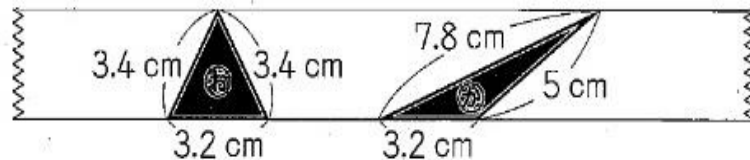
- ◎ () を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる (大問3-(1)) 【数と計算】
- ◎ (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる (大問3-(4)) 【数と計算】

【特に課題と考えられる項目】

- ▼ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。(大問2-(4)) 【図形】

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域
2-(4)	○	—	図形

- (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくれます。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

<2-(4)>

正答例

「3」

【わけ】(例) 三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

解答の状況

- 誤答率の最も高いものは、「4」と解答し、「高さについて具体的な長さが示されていない」ことを書いているものが約18%で最も多い。
- 全国や兵庫県の平均正答率と比較すると約7%程度下回る。
- 無回答率は約9%で全国や兵庫県より約5%高い。

改善に向けて考えられる方策等

- 2つの三角形の高さが同じであるということに気付くことができていないか、具体的な数値が示されていないので比べることができないと判断したと考えられる。具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見出したり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導することが重要である。
- デジタル教科書等を活用し、様々な三角形の形の変化と面積の関係について確認する。



③ 中学校 国語

【良好と考えられる項目】

◎文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができること。(大問2-四)【知識・技能 (3)我が国の言語文化に関する事項】【思考・判断・表現 C読むこと】

◎歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができること。
(大問4-一)【知識・技能 (3)我が国の言語文化に関する事項】

◎聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができること。
(大問1-四)【思考・判断・表現 A話すこと・聞くこと】

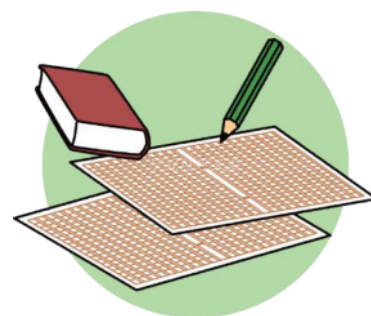
◎観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができること。
(大問2-二)【思考・判断・表現 C読むこと】

【特に課題と考えられる項目】

▼文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができること。(大問4-三)【思考・判断・表現 C読むこと】

※該当する「問い」は、ありませんでした。

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域等
*	-	-	-



④中学校 数学

【良好と考えられる項目】

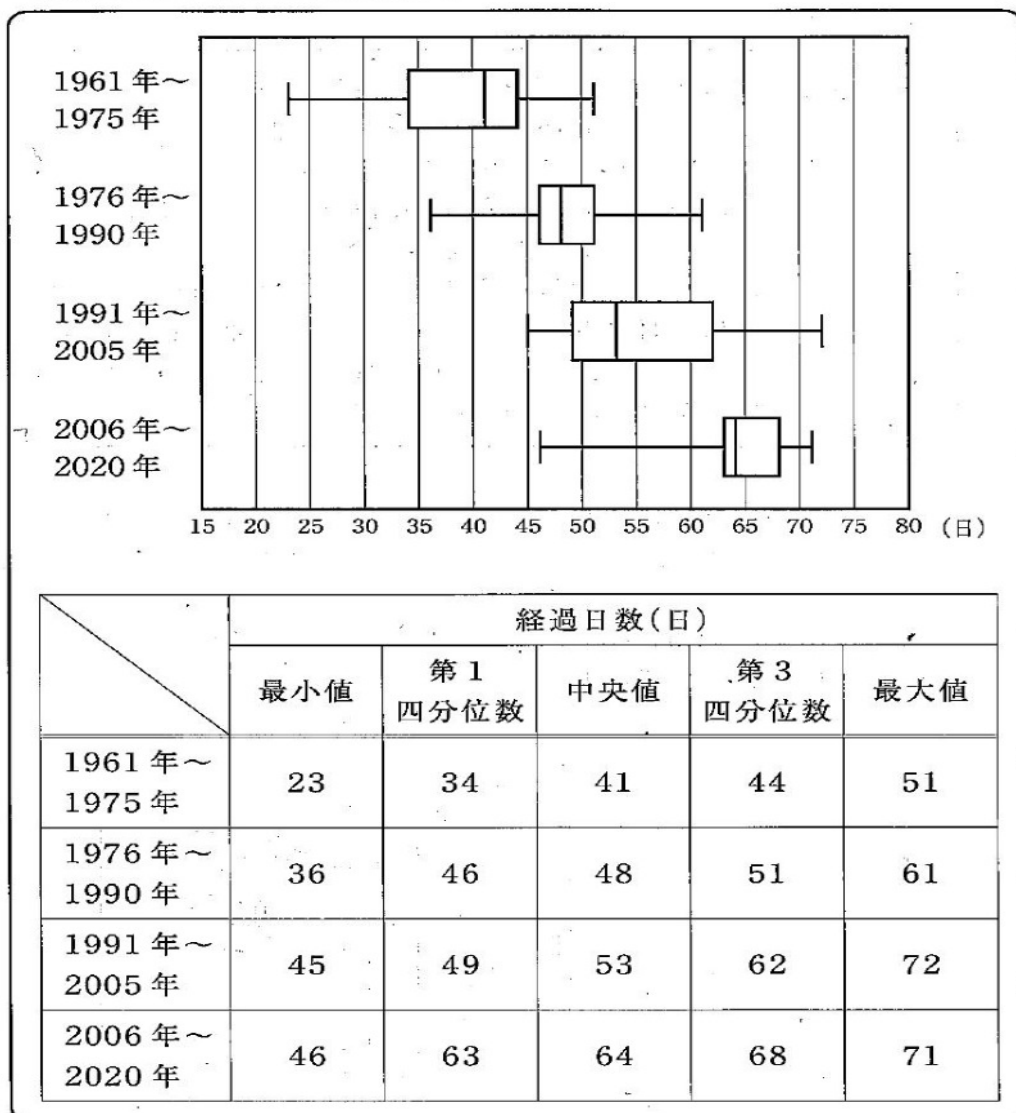
- ◎数と整式の乗法の計算ができること。(大問2)【数と式】
- ◎四分位範囲の意味を理解していること。(大問7-(1))【データの活用】
- 累積度数の意味を理解していること。(大問5)【データの活用】

【特に課題と考えられる項目】

- ▼複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができること。(大問7-(2))【データの活用】

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域
7-(2)	○	○	データの活用

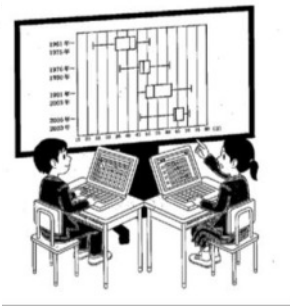
7 黄葉日までの経過日数の分布



(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。



<7-(2)>

正答例

(2) 説明(例)

「1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。」

解答の状況

- 誤答として最も多いのは、箱ひげ図の箱やひげの長さについて記述しているものである。
- 無解答の生徒の割合は24%で、全国、兵庫県と同程度である。

改善に向けて考えられる方策等

- データの分析の傾向を読み取って判断し、その理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて的確に説明できるようにする。

⑤中学校 英語

【良好と考えられる項目】

◎情報を正確に聞き取ることができること。(大問1- (1))【(1) 聞くこと】

◎社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができること。(大問4)【(1) 聞くこと】

◎日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができること。(大問7- (2))【(2) 読むこと】

◎「話すこと」については全国の正答率が、全ての質問(5問)で30%以下となっているが、概ね(4問)全国の正答率を上回っている。

【特に課題と考えられる項目】

▼社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができること(大問8- (2))【(5) 書くこと】

▼疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができること(大問9- (1)②)【(5) 書くこと】

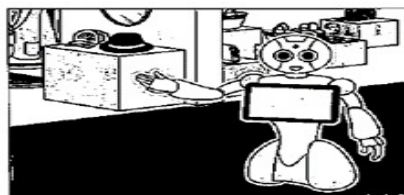
▼日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができること(大問10)【(5) 書くこと】

	正答率が30%以下	無解答率が10%以上	領域
8-(2)	○	○	書くこと
9-(1)②	○	○	書くこと
10	○	○	書くこと

* 「話すこと」については、全国の平均正答率が30%以下の項目は掲載しない。

- 8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I



could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

- (2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

〈8 - (2)〉

解答例

(2) (例 I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.)

(例 I don't agree with you because people will lose their job.)

解答の状況

- ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えを書いているが、その理由を書いていない解答が、約26%あり、県・全国と同程度である。
- ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えや理由を書き、おおむね正確な英語での解答が約25%あり、県・全国を上回る。
- 無解答は24%であり、県・全国を下回る。

改善に向けて考えられる方策等

- 読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切である。その際、なぜそのように考えたのかという理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりするといった取り組みが効果的である。

9

(1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <友達同士の会話>

A : I called you at eight last night.

B : Oh, sorry. I (do) my homework then.

[答え] was doing

② <友達同士の会話>

A : Oh, you have a new watch!

B : Yes, I got it yesterday.

A : (buy) the watch?

B : At a department store near the station.

<9 - (1) ②>

解答例

(例 Where did you buy)

解答の状況

- 疑問詞 where を用いているが、一般動詞の2人称単数過去形以外の疑問文を書いている解答が約31%、疑問文になっていない解答が約21%ある。

改善に向けて考えられる方策等

- 基本的な語や文法事項等を理解して一般動詞の疑問文を書く学習活動を行う。
- 疑問詞を用いて一般動詞の疑問文を書く学習活動を工夫して行う。

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

<10>

解答例

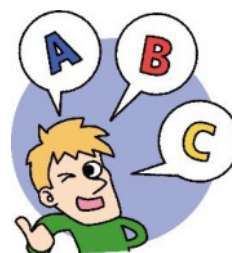
(例 Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs.)

解答の状況

- ①学校生活（行事や部活動など）の中から取り上げる ②紹介する内容を一貫性のある文章で書く ③25語以上の英語で書くなどの条件を満たしているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがある解答が約38%ある。
- ③25語以上の英語で書く条件を満たしていない解答が約22%ある。
- 無解答は約14%で県・全国より少ない。

改善に向けて考えられる方策等

- 「自分の考えを持ち、自分の言葉で表現できるようになること」をめあてに学習活動を工夫することが大切である。例えば、①日本語で自分の主張したいことをまとめる。②ペアやグループで自分の考えを伝えたり、話し合ったりする。③最後に、話し合ったことを参考にしつつ、自分の考えを英文にまとめあげていくなどの学習活動も考えられる。



(3) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

① 学校運営に関する取組状況(抜粋)

学校質問紙による回答結果による香美町における取組状況は次の表のとおりである。

◆学校運営に関する状況について

質問番号	質問事項		
小(16)、中(16)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか。		
	十分に取り入れている	一部取り入れている	全く取り入っていない
小学校	3校	7校	0校
中学校	0校	3校	0校

◆PDCAサイクルの確立について

質問番号	質問事項			
小(19)、中(19)	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。			
	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	6校	3校	1校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

◆学習評価について

質問番号	質問事項			
小(41)、中(41)	児童(生徒)に対して前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かすことを心がけましたか。			
	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
小学校	5校	5校	0校	0校
中学校	2校	1校	0校	0校

◆ICT機器の活用状況について

質問番号	質問事項				
小(55)、中(63)	あなたの学校では、前年度までに、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。				
	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	5校	3校	2校	0校	0校
中学校	0校	1校	2校	0校	0校

◆小学校教育と中学校教育の連携について

質問番号	質問事項			
小(69)、中(77)	令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校(中学校)と成果や課題を共有した。			
	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
小学校	1校	6校	2校	1校
中学校	1校	0校	2校	0校

◆家庭や地域との連携等について

質問番号	質問事項
小(71)、中(79)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	6校	4校	0校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

◆調査結果の活用について

質問番号	質問事項
小(78)、中(86)	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	5校	5校	0校
中学校	2校	1校	0校

質問番号	質問事項
小(80)、中(88)	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含みます。)

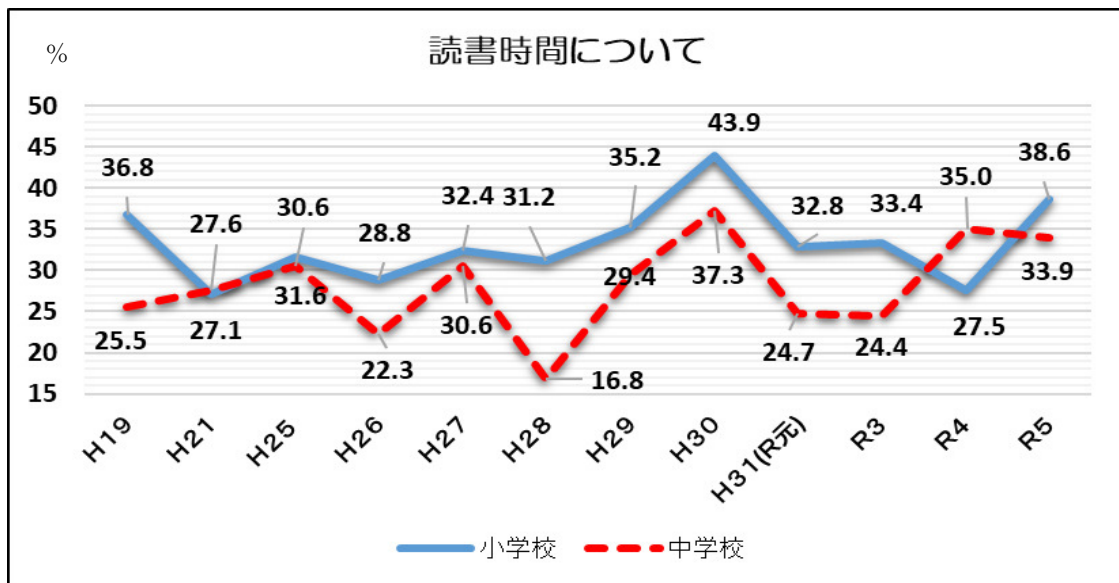
	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	3校	7校	0校
中学校	1校	2校	0校

- 取り上げた項目においては、概ね肯定的な回答であり、学校長のリーダーシップのもと学校運営の円滑化に向けて、教職員が一体となって取り組んでいる様子が見える。
- PC・タブレットなどのICT機器の活用については、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答状況との間に少なからず差が見られる。児童生徒が活用を実感できるよう授業で取り組む必要がある。(24ページ参照)
- 小学校教育と中学校教育の連携について、「あまり行わなかった」、「全く行わなかった」と回答している学校が見られる。今後とも改善に向けた校区での計画的な取組が必要である。



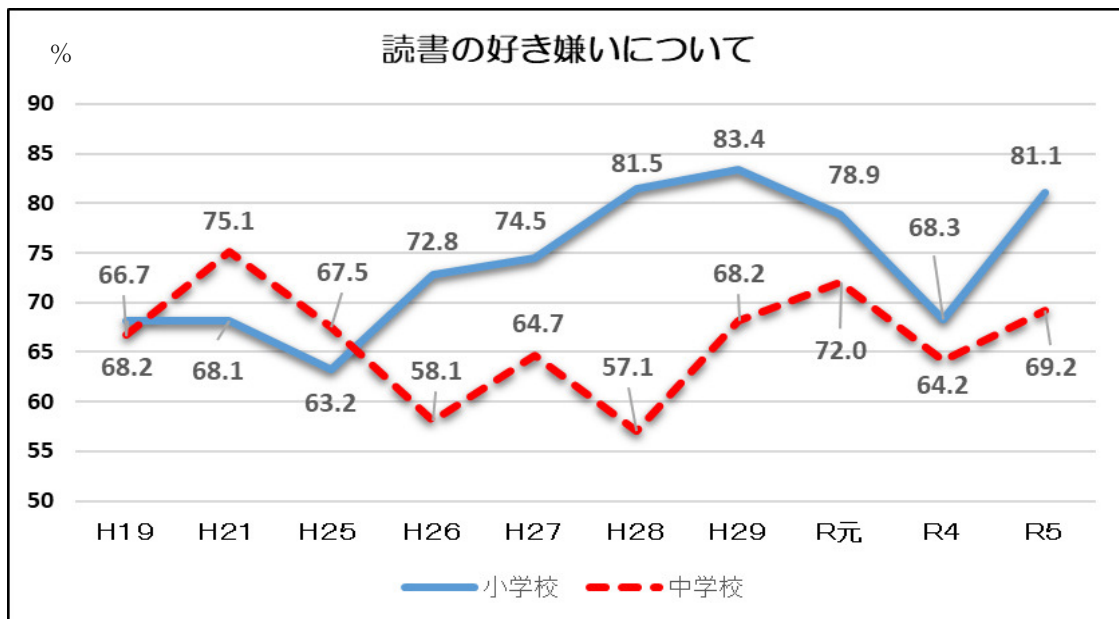
② これまでの回答状況の変化から

ア【読書活動について】（「3つの町民運動」関連） 質問番号 小（20）・中（20）



(注) 平日、学校の授業時間以外に30分以上読書する児童・生徒の割合の推移

質問番号 小（24）・中（24）

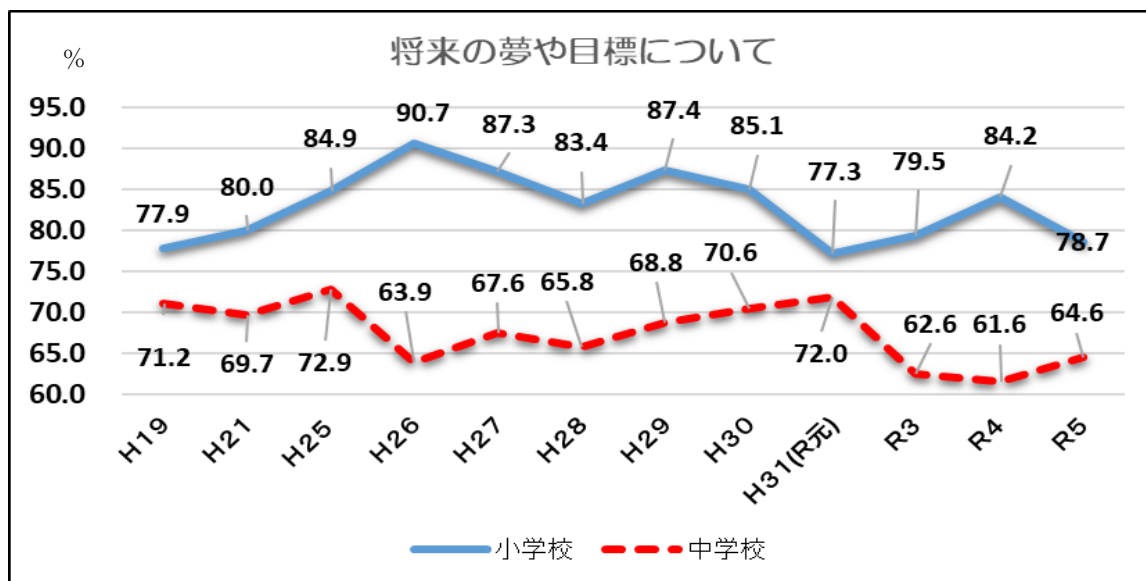


(注) 「読書が好き」に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

- 「読書時間」に関する問いでは、児童は昨年度と比較して増加したが、生徒は減少した。
- 「読書は好きですか」に関する問いでは、児童生徒とも昨年度より割合が増加した。
- 今後とも「3つの町民運動」における「読書」の取組を着実に進めていくことが求められる。

イ【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）

質問番号 小(7)・中(7)

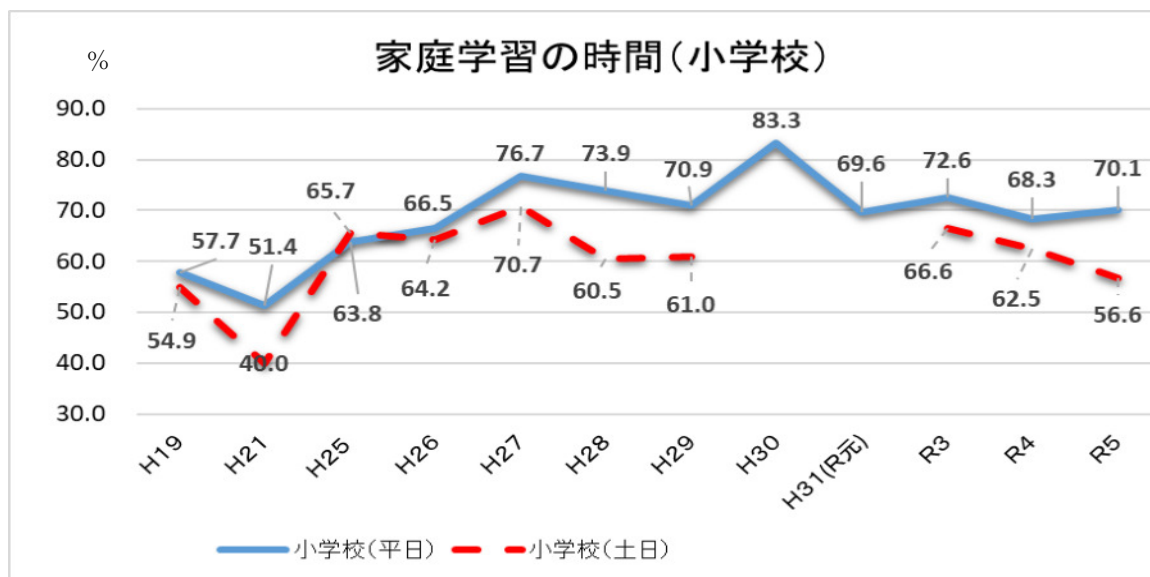


(注) 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

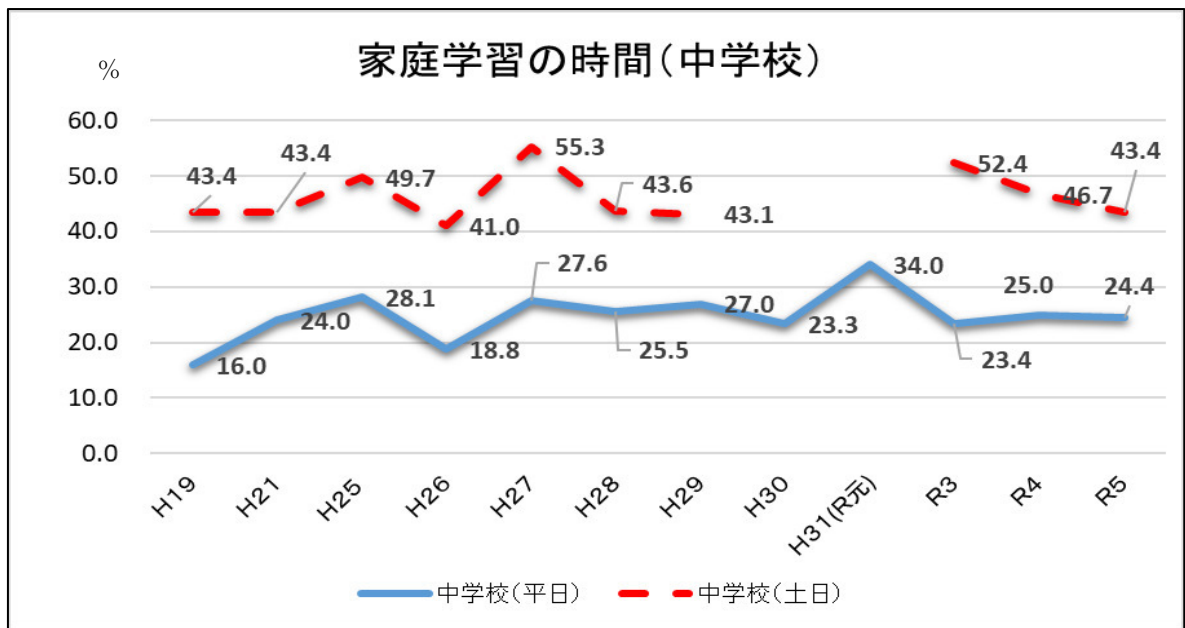
- 今年度は、中学校は微増し、やや回復しているが、小学校はやや減少している。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%前後で推移している。一方、生徒では近年60%台で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

ウ【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）

質問番号 小・中(17)・(18)



(注) 児童…1時間以上(平日・土日とも) (注) H30、H31は質問項目なし



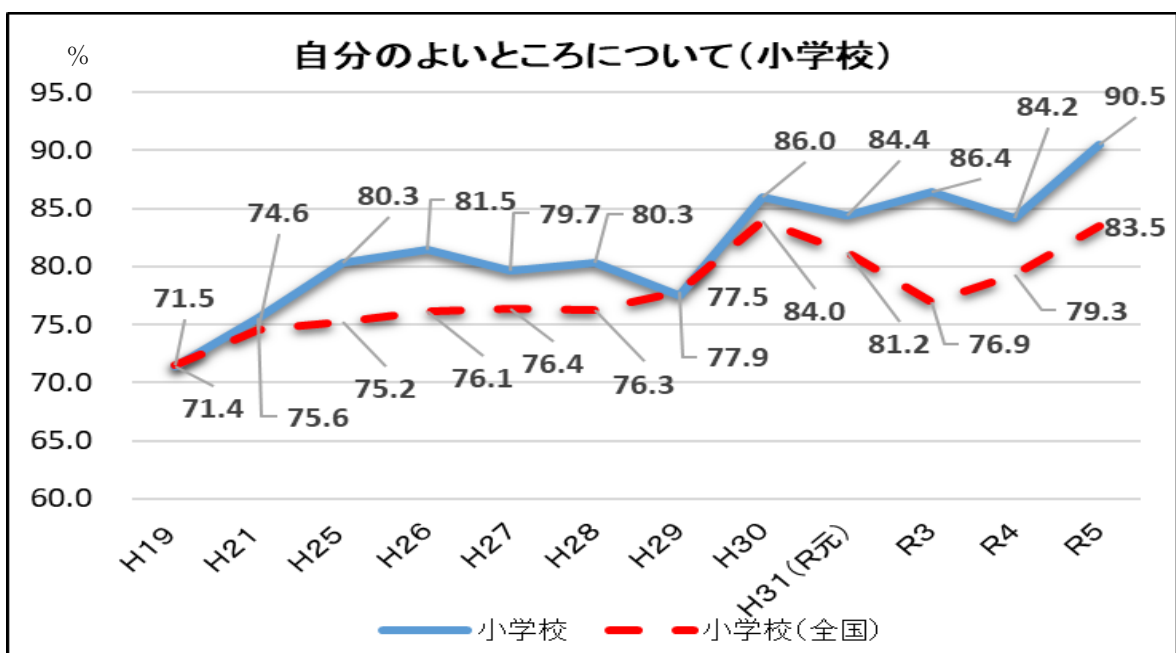
(注) 生徒… 2時間以上 (平日・土日とも)

(注) H30. H31 は質問項目なし

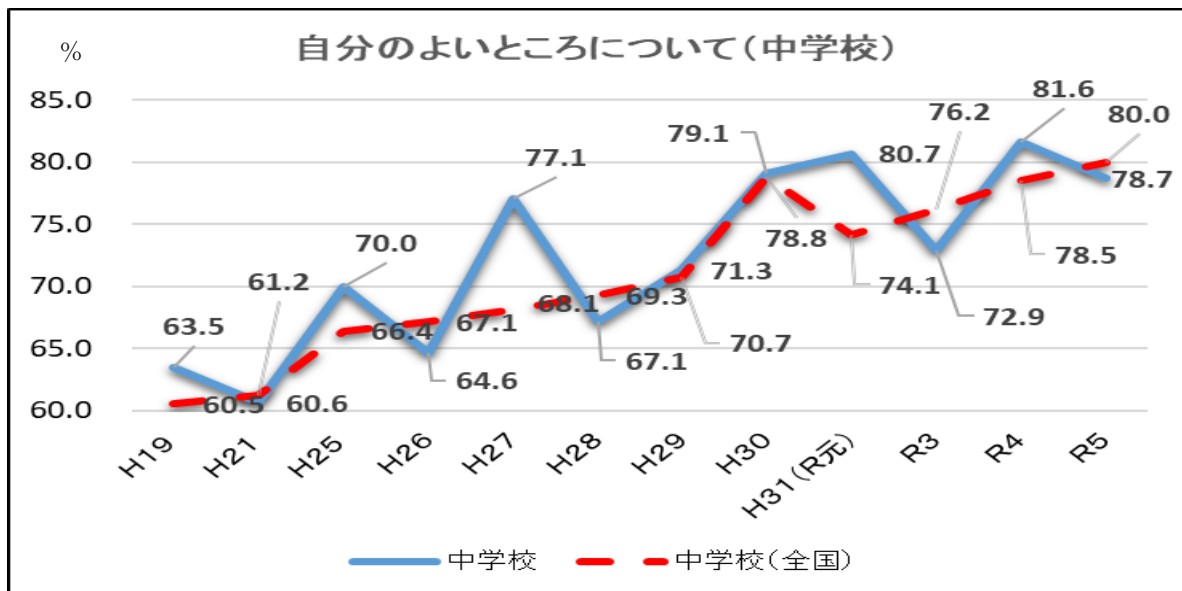
- 今年度、児童の平日の家庭学習時間は微増し、生徒の家庭学習の時間は、わずかに減少している。
- 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合は、昨年度と比較してほぼ同程度であり、依然として20%台のままである。「家庭学習のきまり」などによる啓発を通じて、家庭学習の習慣化の取組を着実に進めていく必要がある。
- 土曜日、日曜日の家庭学習時間は、児童生徒とも昨年度よりも減少している。
- 今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

エ【自己有用感について】

質問番号 小(4)・中(4)



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の推移



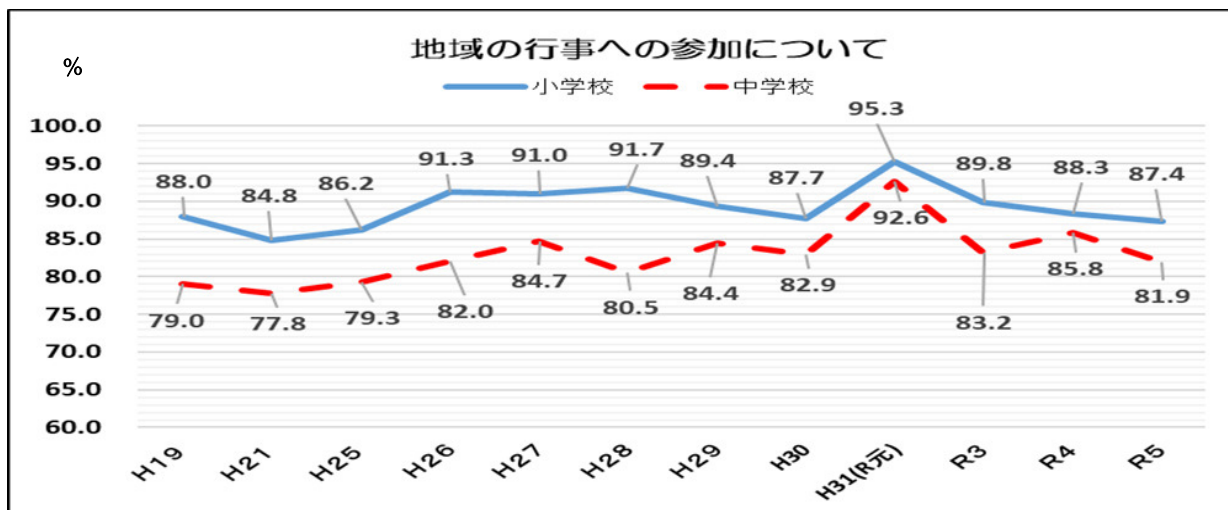
(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合の推移

- 児童は全国と比較して自己有用感を抱いている割合は高い。一方生徒は、全国と同程度である。
- 今年度は、小学校では増加に転じているが、中学校では減少している。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。



オ【ふるさと意識の醸成について】（「ふるさと教育」推進関連）

質問番号（小25）・（中29）



（注）「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

- 児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高い。
- 今年度は、昨年度と比較して児童生徒はやや低下しているが、長いスパンで見ると高い割合で推移している。
- 学力とのクロス集計では、生徒については、肯定的に回答している方が平均正答率が高い傾向にある。（P32参照）

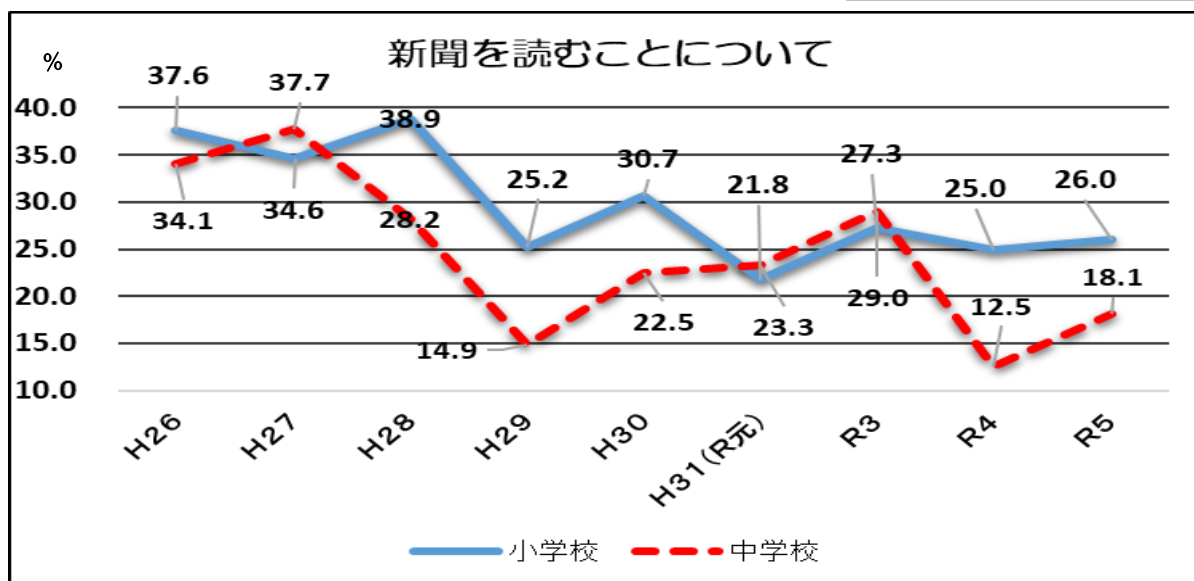
（参考）

「今住んでいる地域が好きですか。」（平成19年度調査）の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童（小学校6年生）生徒（中学校3年生）の割合は次のとおりである。

児童	84.8%
生徒	73.1%

カ【新聞を読むことについて】（社会に対する興味・関心）

質問番号（小23）・（中23）



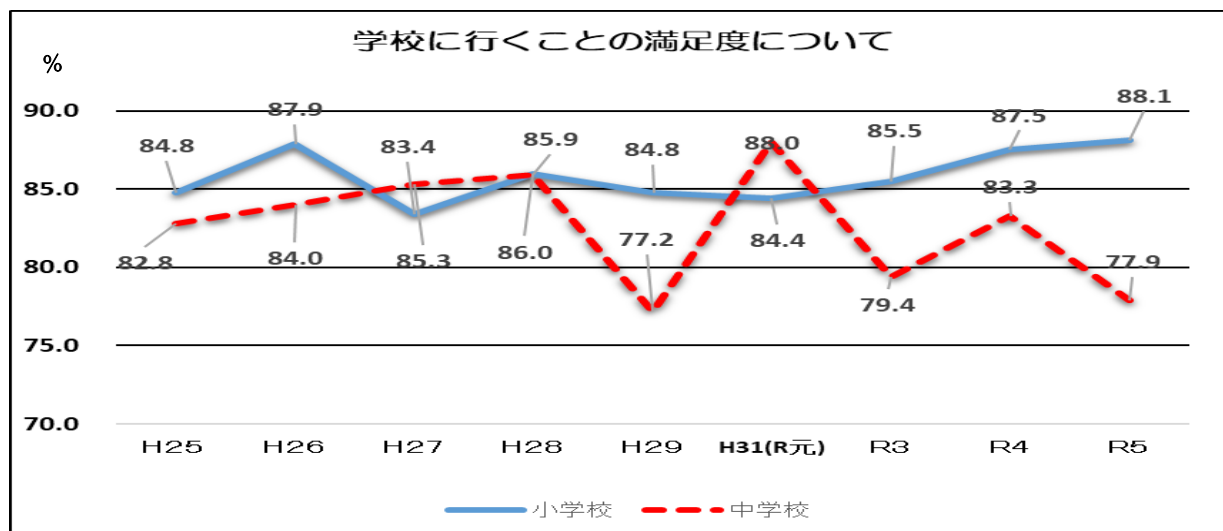
（注）平成25年度は、香美町小・中学校は本質問番号を選択していないためデータなし

（注）「毎日読む」、「週に1回～3回読む」と回答した児童生徒の割合の推移

- 児童生徒とも「毎日読む」、「週に1回～3回読む」を合わせて微増しているが、児童は20%台、生徒は10%台で推移している。
- 生徒は、新聞を読む頻度と国語の平均正答率にゆるやかな相関関係が見られる。
- 新聞を毎日読む生徒は教科の平均正答率が高い傾向にある。(P33参照)
- 問題の意図を読み込む力などを身に付けるためには、日常生活の中で新聞の活字に機会あるごとに触れたり、新聞を日々の授業実践の中で活用したりしていくことなどが求められる。

キ【学校に行くことについて】(学校満足度関連)

質問番号(小12)・(中12)



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

(注) 平成30年度は、児童生徒質問紙に本質問がなかったためデータなし

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、概ね80%台で推移していたが、本年度は生徒が減少した。
- 令和3年度以降の生徒の満足度が減少したのは、新型コロナウイルス感染症による影響で、主体性が発揮できる学校行事などが減ったことや進路への不安などが影響していたことなども考えられる。
- 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えている児童生徒が一定割合いることが課題である。

(参考)

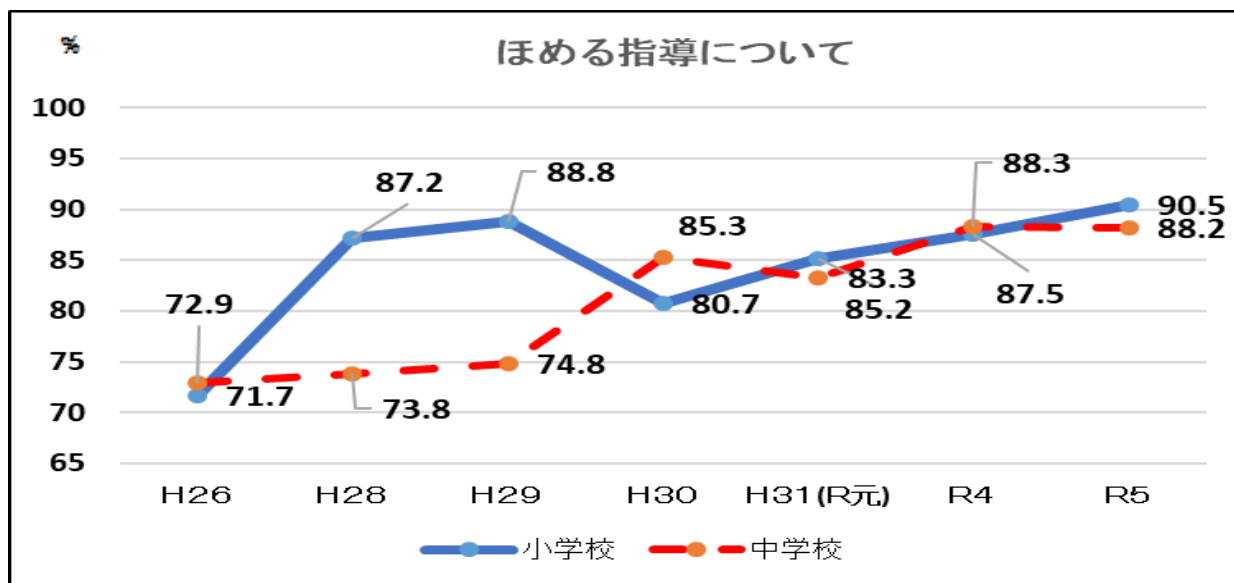
■ 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、次のとおりである。

(%)

	児童	生徒
香美町	53.5	40.9
兵庫県	49.1	42.8
全国	49.8	43.3

ク【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）

質問番号（小5）・（中5）



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

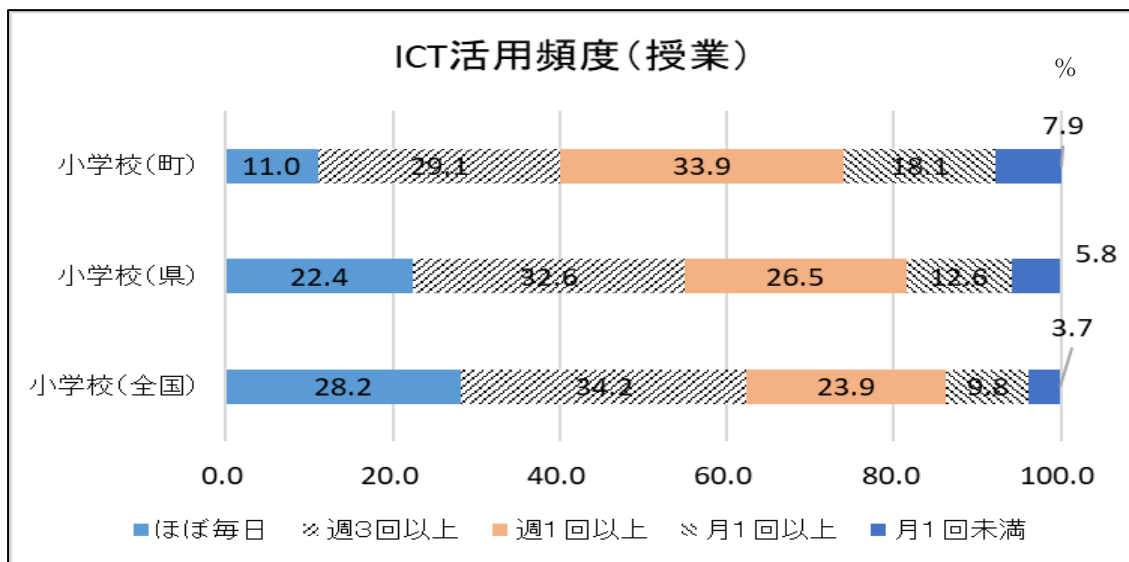
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、今年度、児童は増加し90%を越え、生徒は80%台で推移しており、増加傾向である。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」、「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「ほめること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の学習意欲を向上させることが求められる。

③ PC・タブレットなどのICT機器の活用などについて

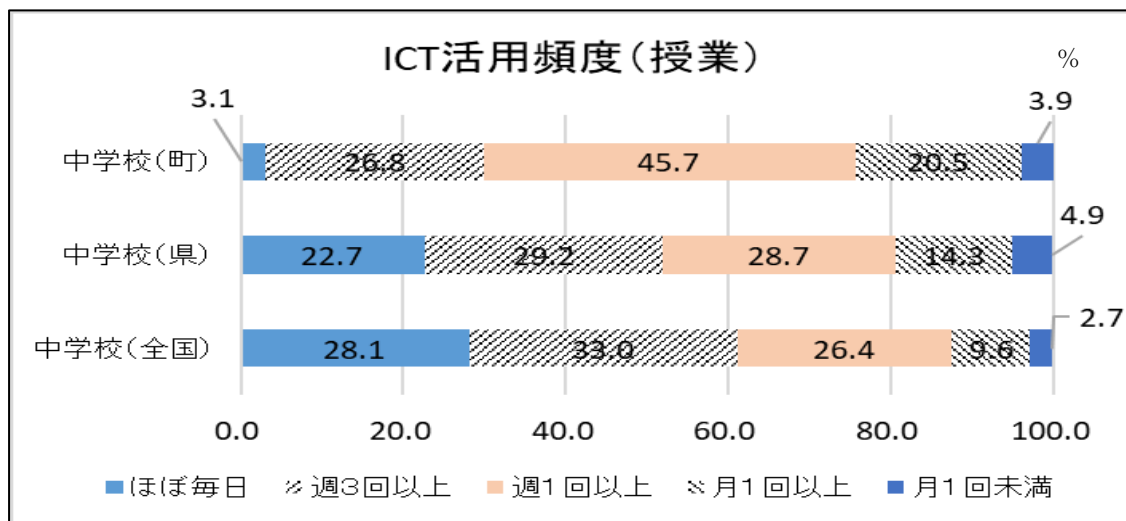
国の「GIGAスクール構想」により、児童生徒1人1台にタブレット端末が整備された。調査時点での活用の状況等については以下のとおりである。

ア【ICTの活用頻度①〈授業〉】

質問番号 小(29)

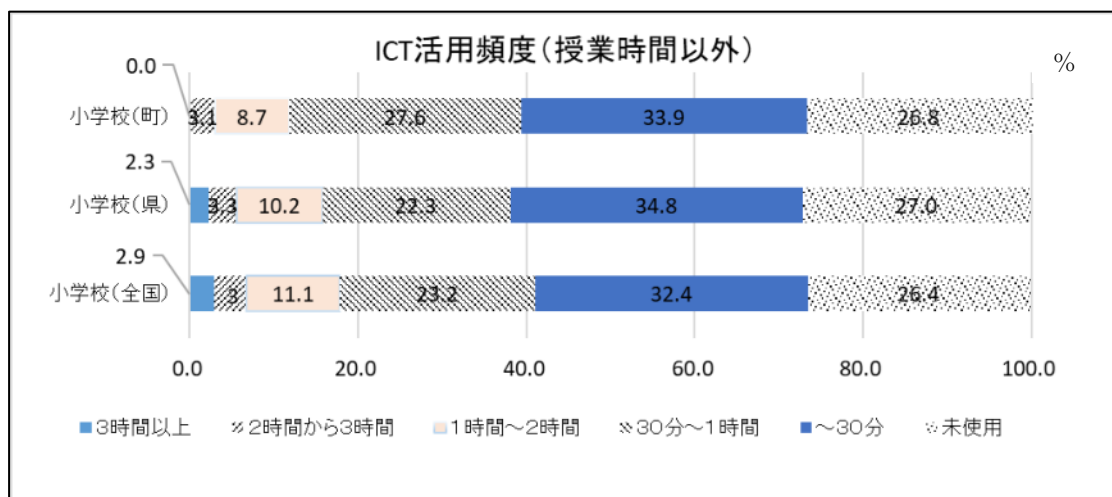


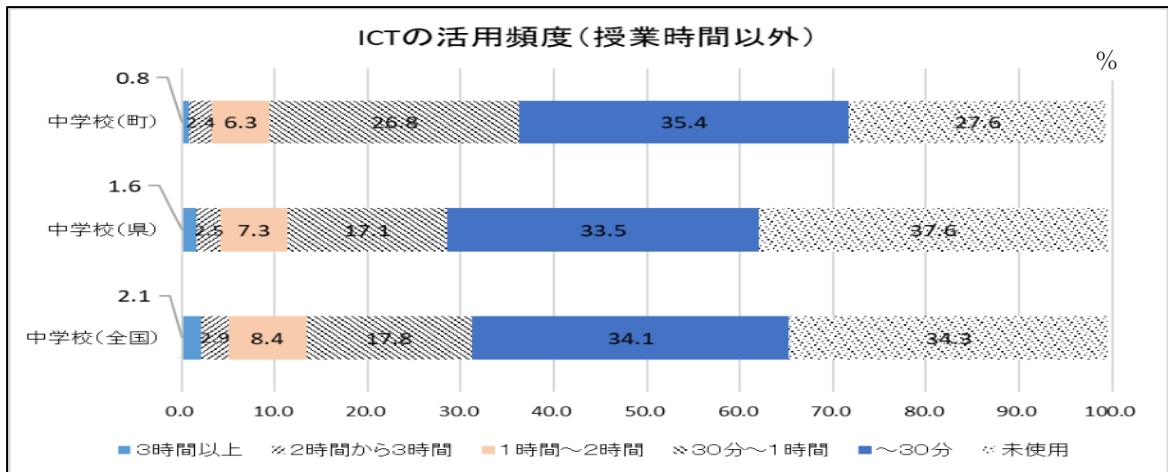
質問番号 中(33)



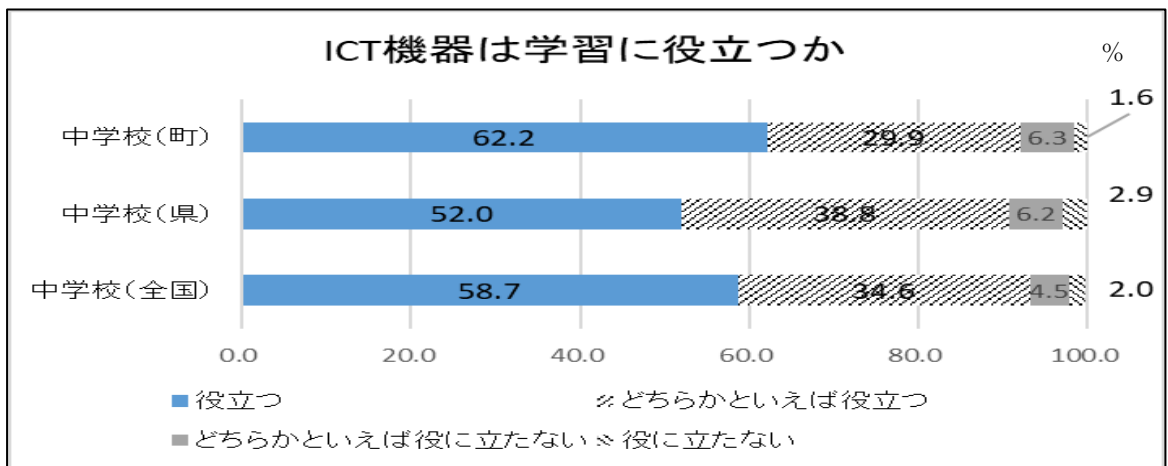
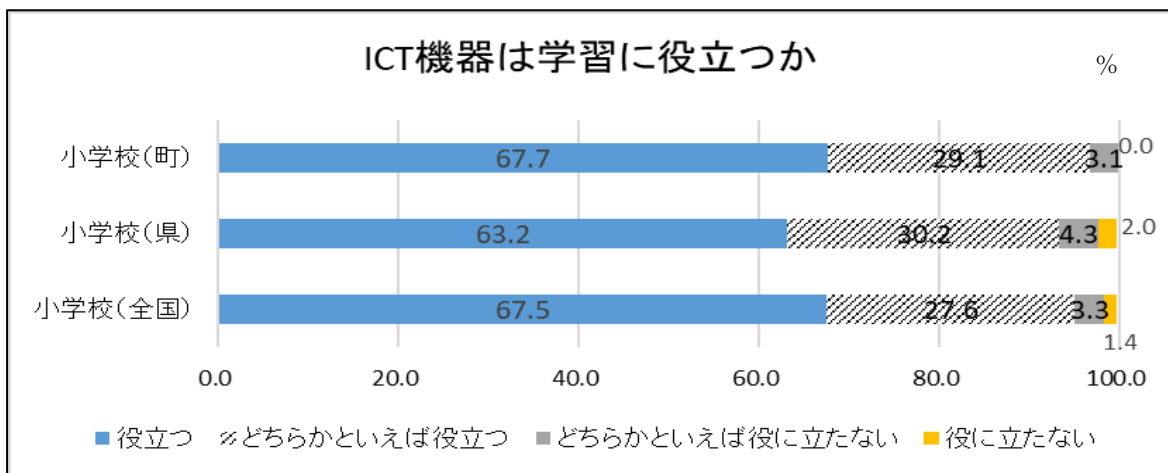
イ【ICTの活用頻度②〈授業時間以外〉】

質問番号 小(31)





ウ【ICT機器の有用性】



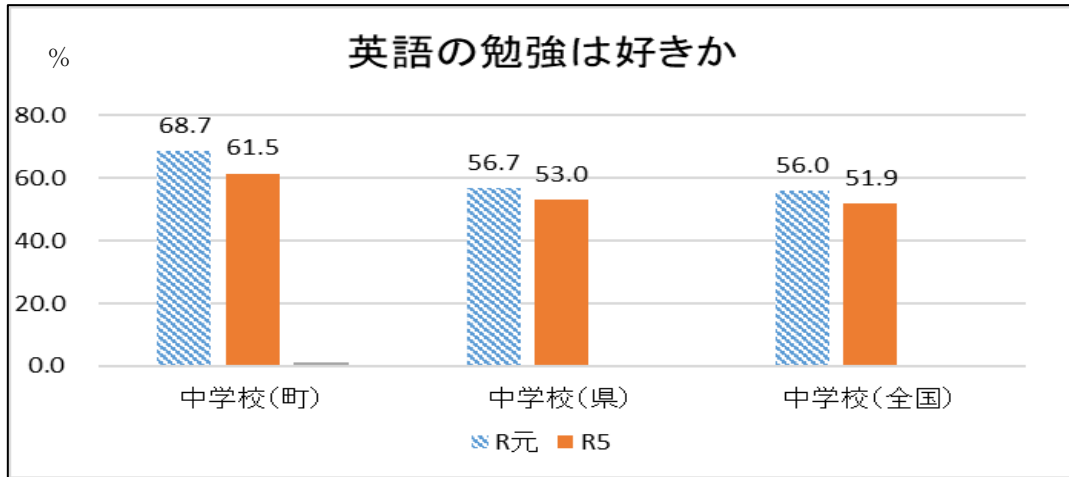
- 授業でのPC・タブレットの使用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
- 授業時間以外の場面においても使用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
- ICT機器の有用性については、児童生徒とも全国、兵庫県と比較し回答は同傾向であり、有用性の認識度は高い。
- 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの効果的な活用の在り方について研鑽を積むことが求められる。

④ 英語に関する状況について

英語に関する調査が4年ぶりに実施された。令和元年度（平成31年度）の状況等との比較なども含めた結果は以下のとおりである。

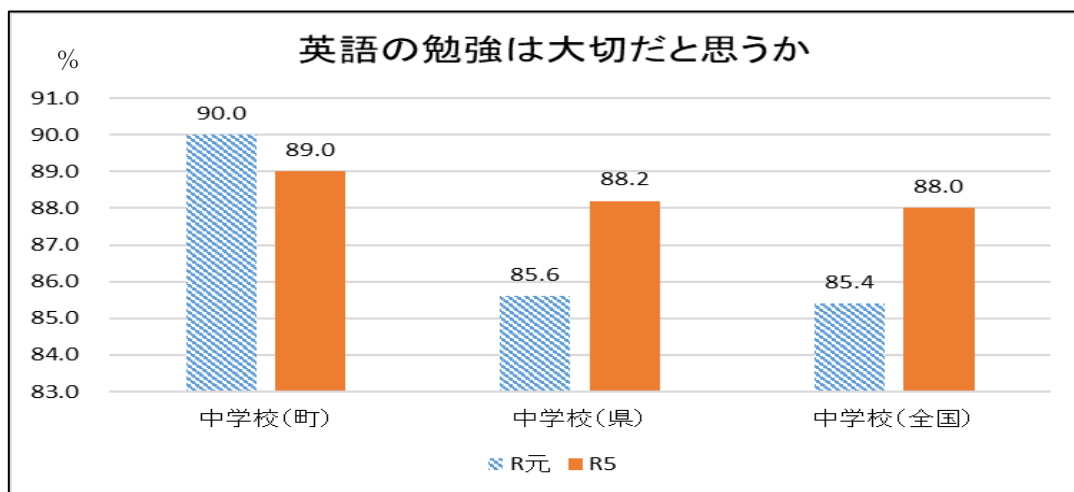
ア【英語に関する興味・関心等】

質問番号 中（59）



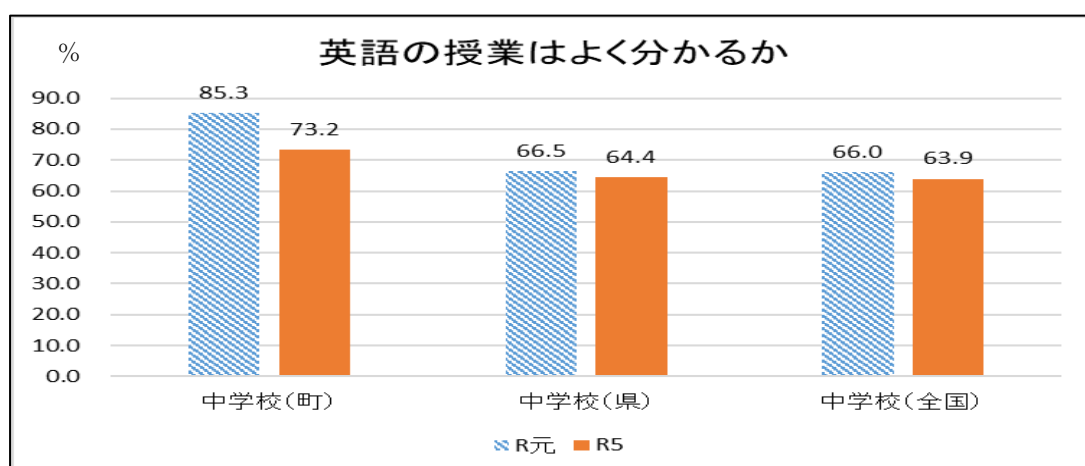
(注) 各質問とも「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合 以下同じ

質問番号 中（60）



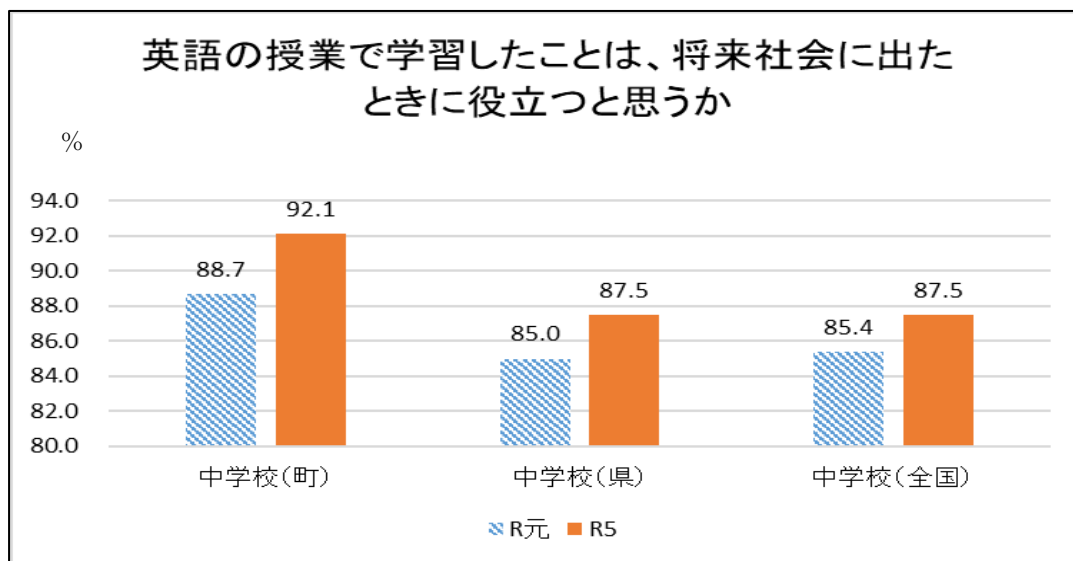
イ【英語の授業における理解度】

質問番号 中（61）



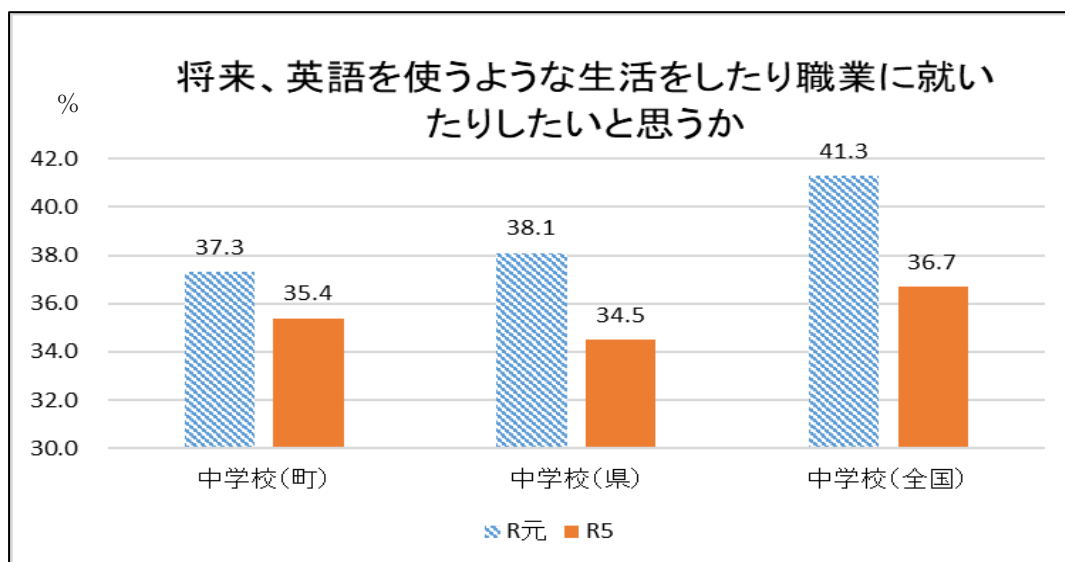
ウ【将来、英語の学習の社会での有用感】

質問番号 中（62）



エ【将来、英語を使う生活や職業への希望】

質問番号 中（63）



- 「英語の勉強は好きか」の質問に、肯定的に回答した割合は、減少している。この傾向は県・全国と同じ傾向である。
- 「英語の勉強は大切だと思うか」の質問に肯定的に回答した割合は県・全国と同程度である。
- 「英語の授業はよく分かる」の質問に、肯定的に回答した割合は、減少している。
- 「英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思うか」の質問に、肯定的に回答した割合は、昨年度より増加し、県・全国よりも高い。

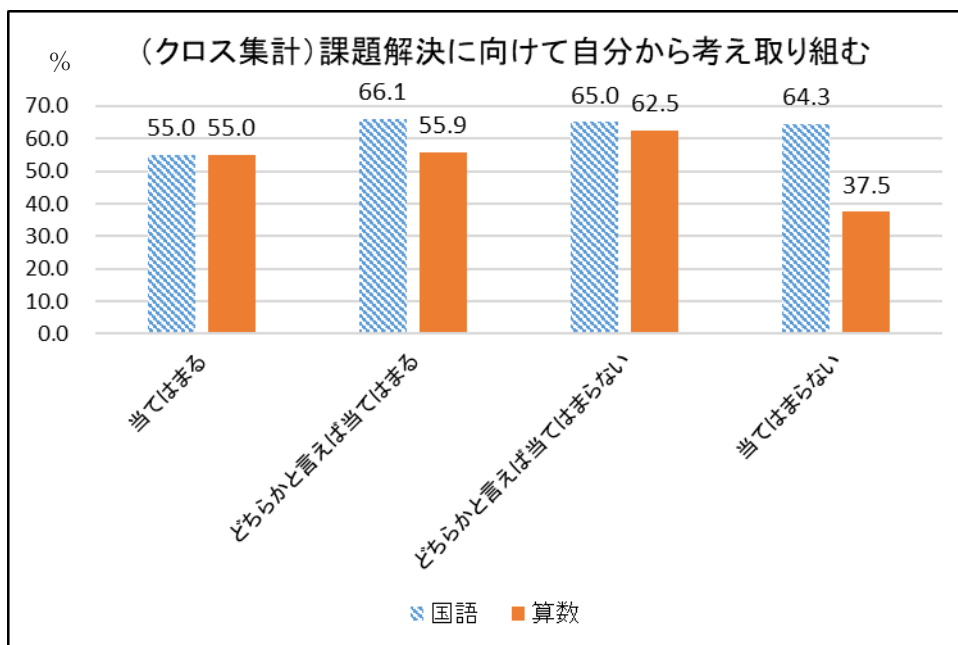
(4) 質問紙と正答率のクロス分析の状況から

① <「主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組」と正答率の状況について>

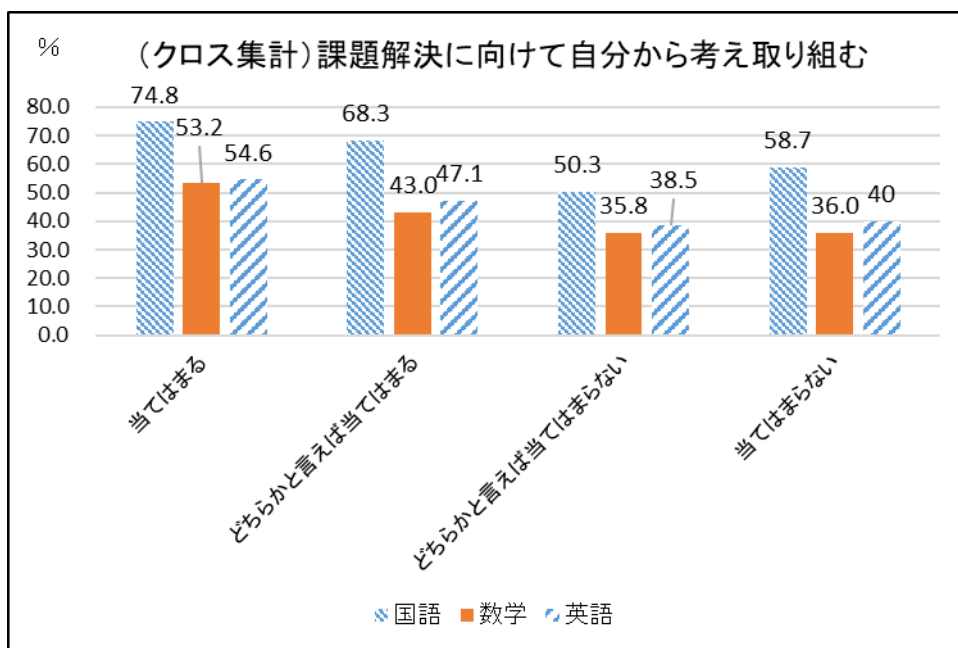
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(33) 中(37)	5年生までに受けた授業では(中学1, 2年生のときに受けた授業では), 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいましたか

《児童》



《生徒》



〔分析及び考察〕

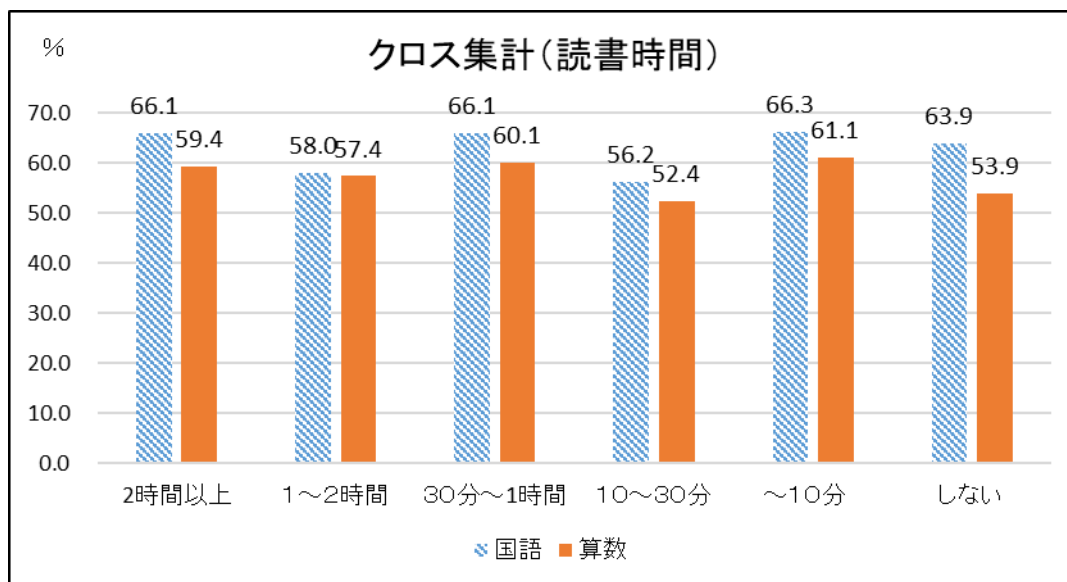
- 児童は、相関関係は認められないが、生徒は肯定的な回答を選択した方が、いずれの教科とも平均正答率が高い傾向にあり、相関が認められる。今後とも、主体的、対話的で深い学びの視点に立った積極的な取組が求められる。
- 学校質問紙では、肯定的な回答をした学校が10校、否定的な回答をした学校が3校ある。

② <「読書時間」と正答率の状況について>

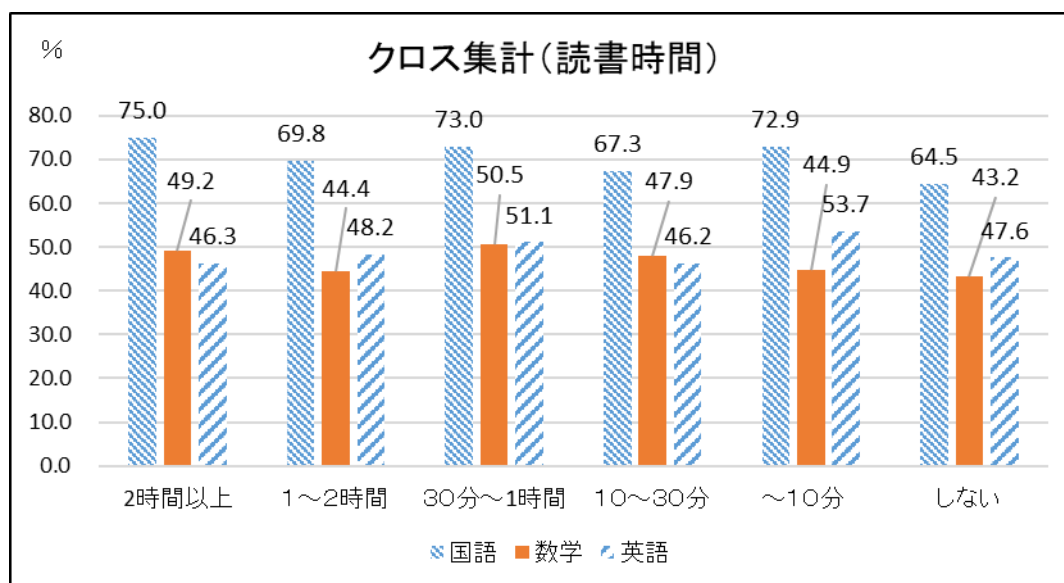
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(20) 中(20)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

- 児童の読書時間数の多少と平均正答率に明らかな相関関係は見られない。
- 読書時間が2時間以上の生徒の国語の平均正答率が、最も高く、相関関係が見られる。

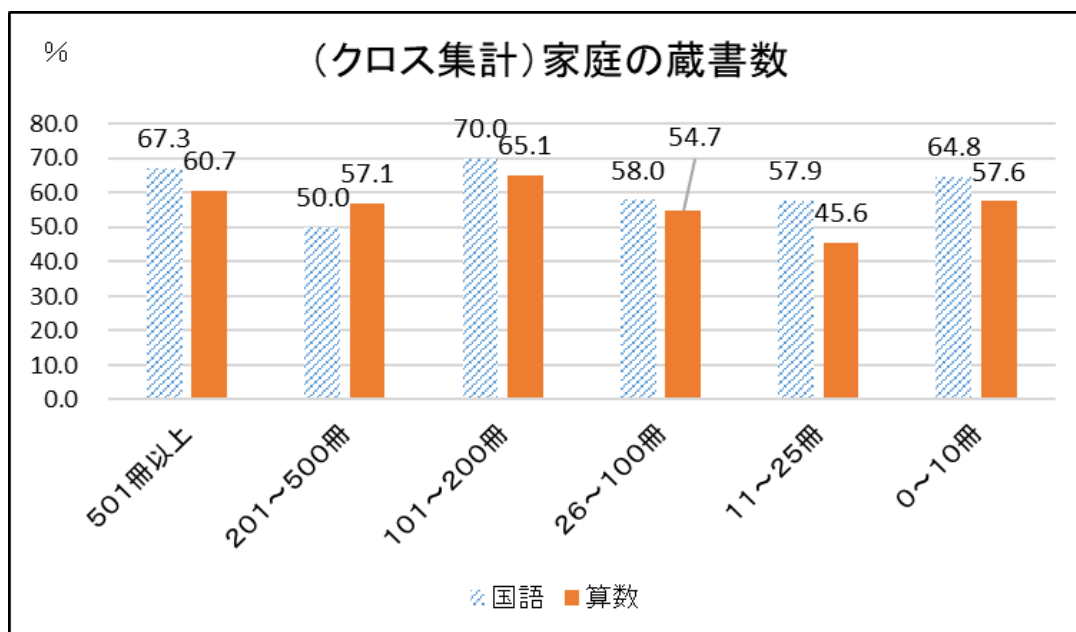


③ <「家庭の蔵書数」と正答率の状況について>

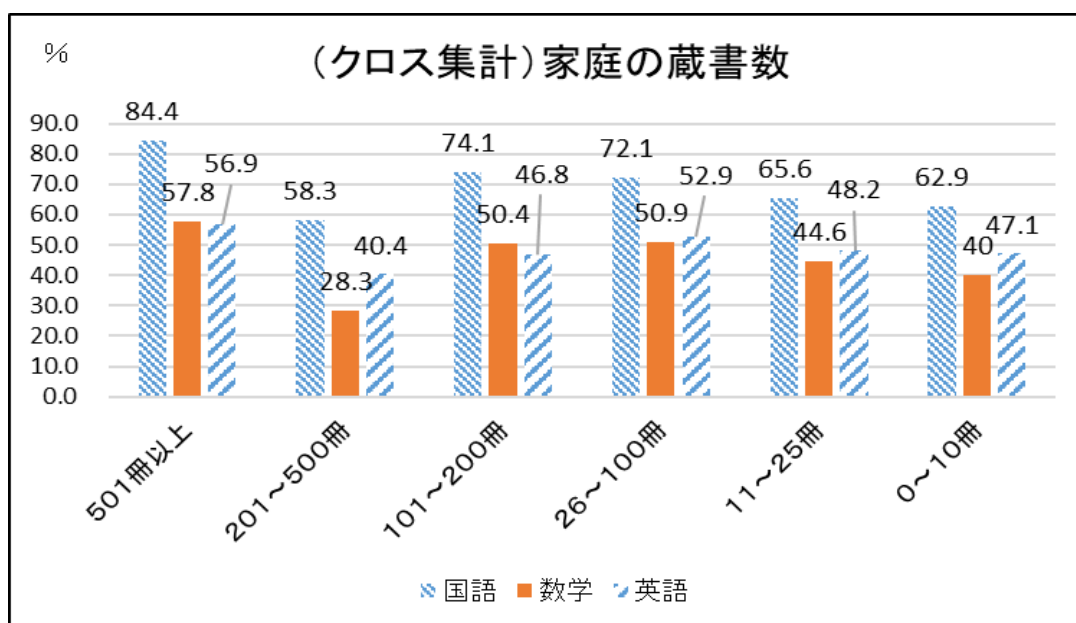
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(22) 中(22)	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

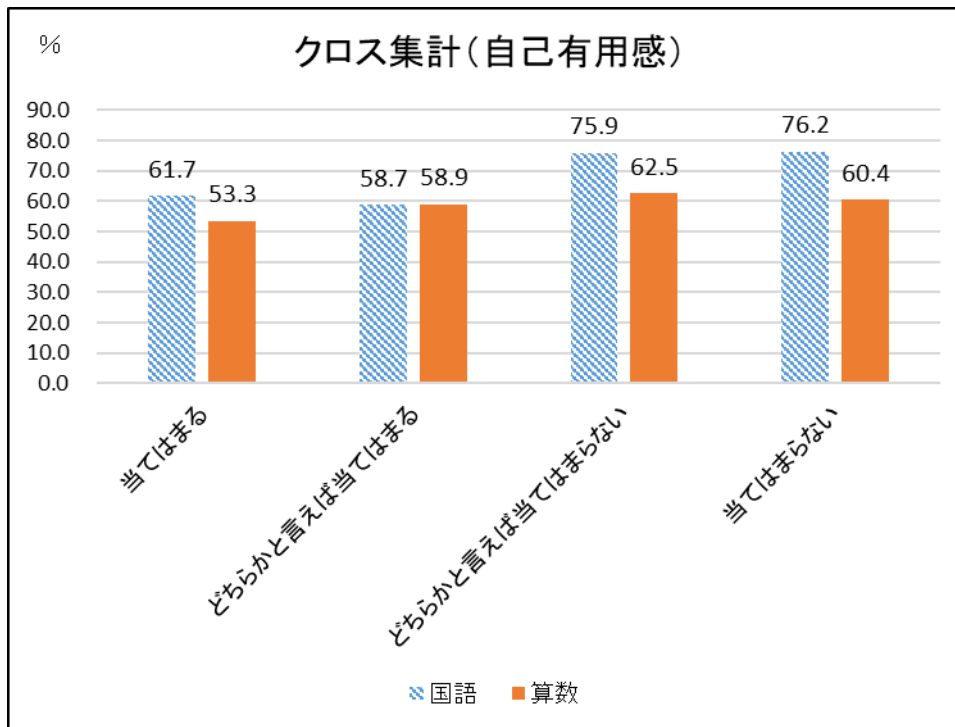
- 生徒は、家庭の蔵書数と国語と数学の平均正答率の間に、ゆるやかな相関関係が見られる。特に、蔵書数501冊以上と回答している生徒の国語の平均正答率は、極めて高い。

④ <「自己有用感」と正答率の状況について>

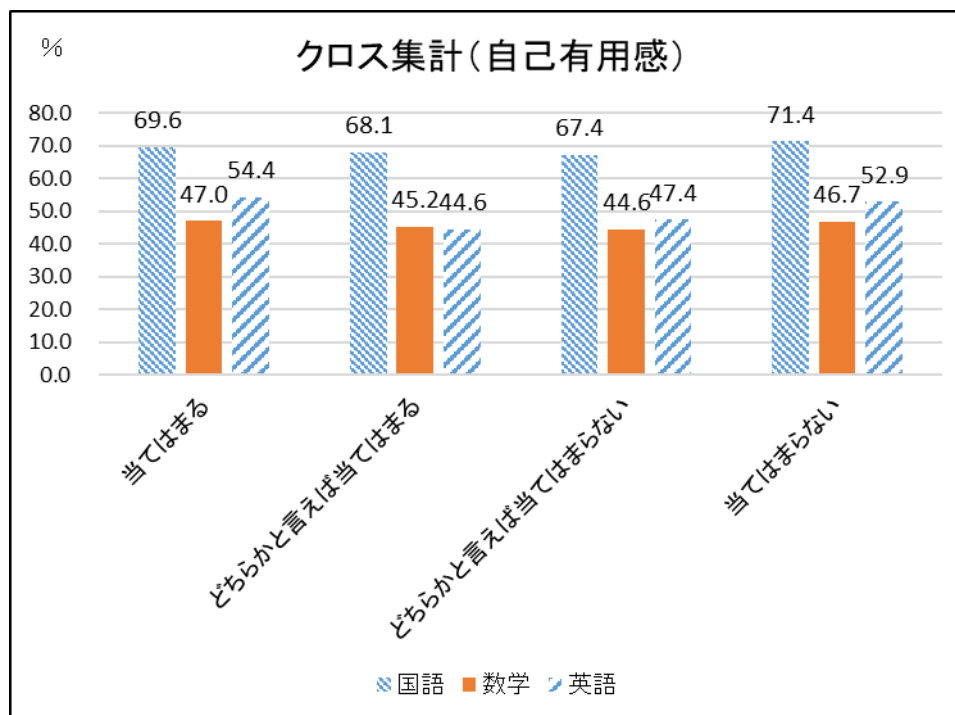
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(4) 中(4)	自分には、よいところがあると思いますか

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

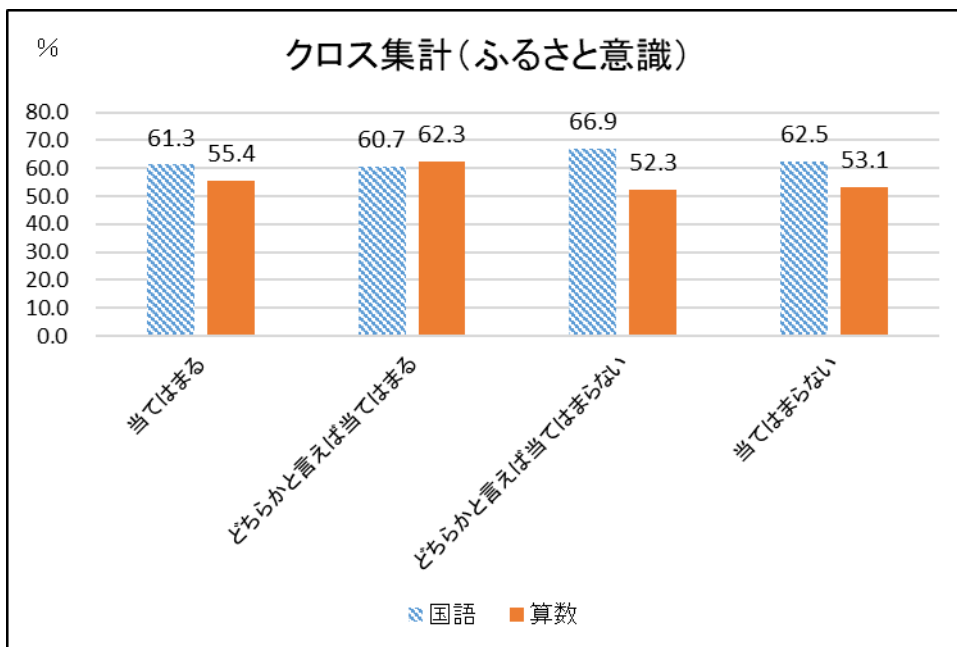
- いずれの教科においても、児童生徒の自己有用感と平均正答率との間に有意な相関関係は認められない。

⑤ <「ふるさと意識」と正答率の状況について>

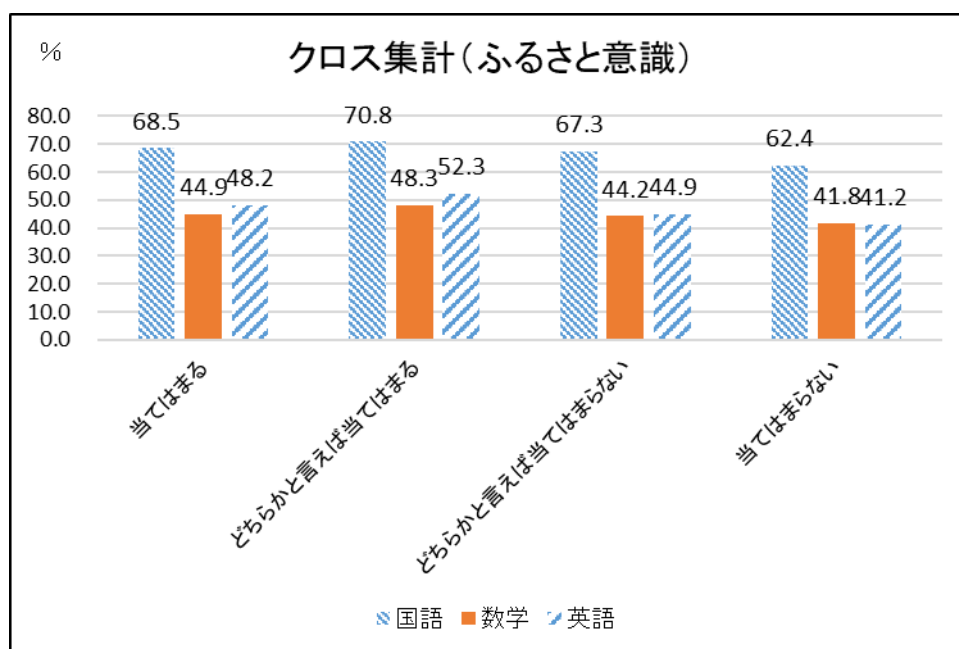
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(25) 中(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか

《児童》



《生徒》



〔分析及び考察〕

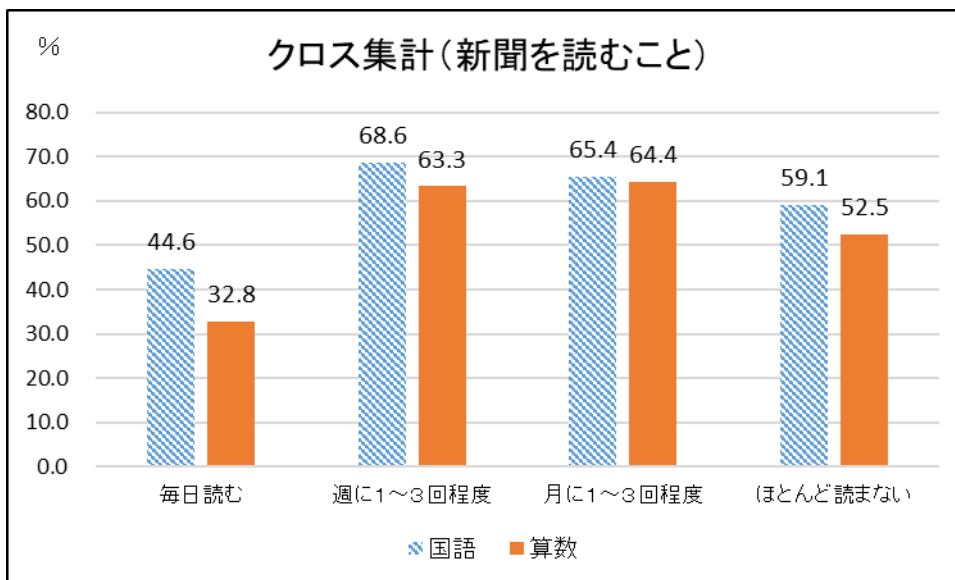
- 児童については、ふるさと意識とそれぞれの教科における平均正答率との間には、有意な相関関係は見られない。
- 生徒については、肯定的に回答している方が平均正答率が高い傾向にある。
- これまでの結果も踏まえると、ふるさとの身近な自然や地域行事などに関心を持たせ、体験的に学ぶことが、学力の向上にもつながることを意識して取り組ませたい。

⑥ <「新聞を読むこと」と平均正答率の状況について>

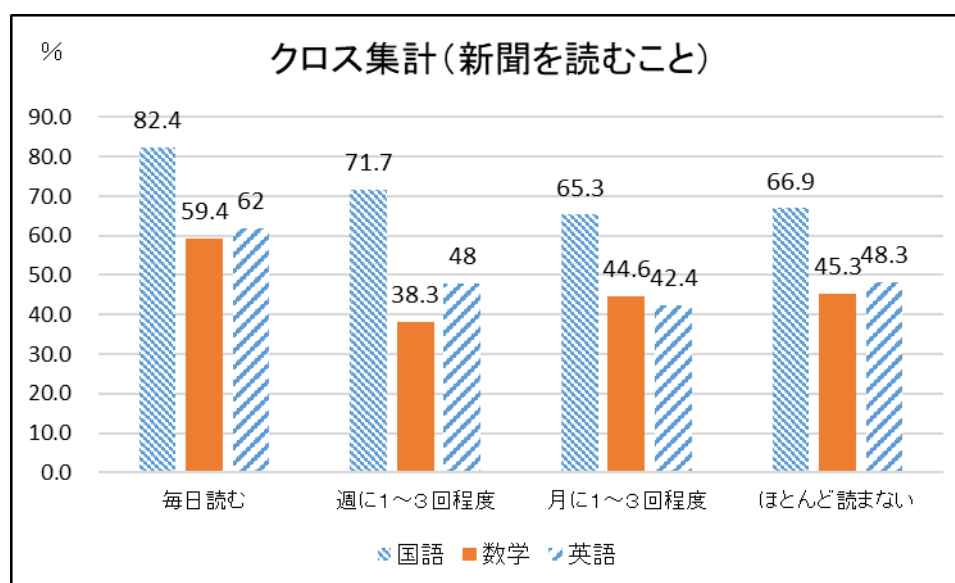
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(23) 中(23)	新聞を読んでいますか

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

- 児童は、新聞を読む頻度とそれぞれの教科の平均正答率との間に有意な相関関係はみられない。
- 生徒は、新聞を読む頻度と国語の平均正答率にゆるやかな相関関係が見られる。
- 新聞を毎日読む生徒は教科の平均正答率が高い傾向にある。
- 新聞を読む習慣は、生徒については昨年度と比較して減少しており、クロス集計の結果からも、積極的に新聞を読むことを日常生活の一部として取り入れていくことが求められる。

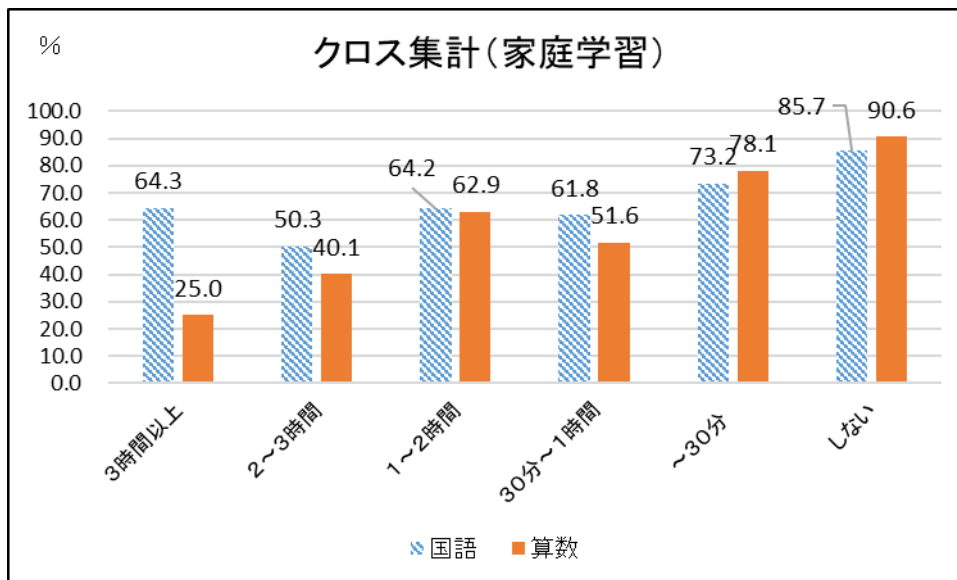


⑦ <「家庭学習」と正答率の状況について>

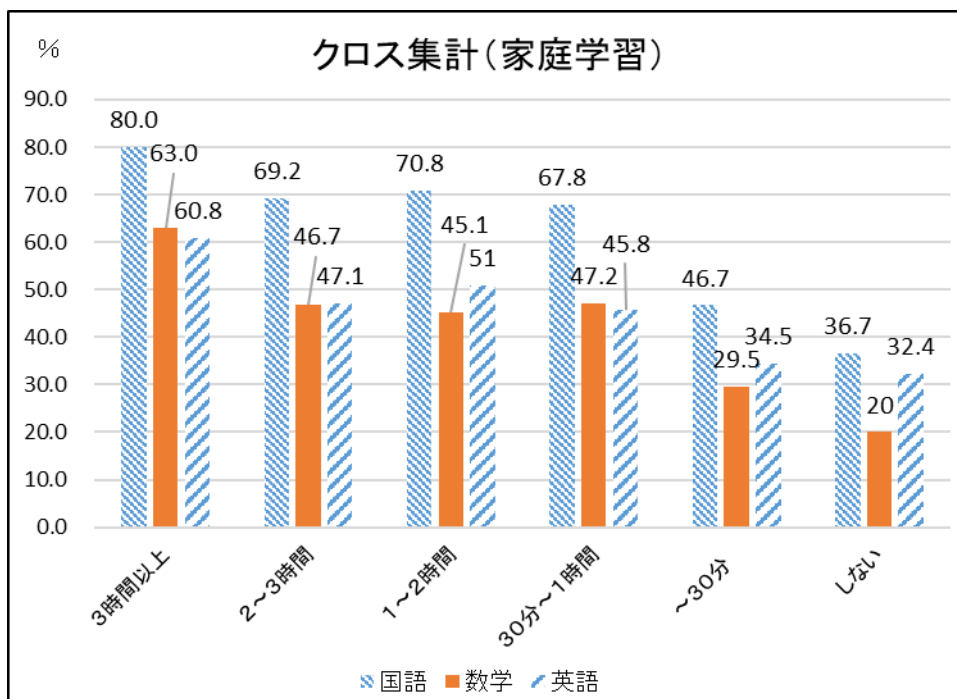
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(17) 中(17)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

《児童》



《生徒》



〔分析及び考察〕

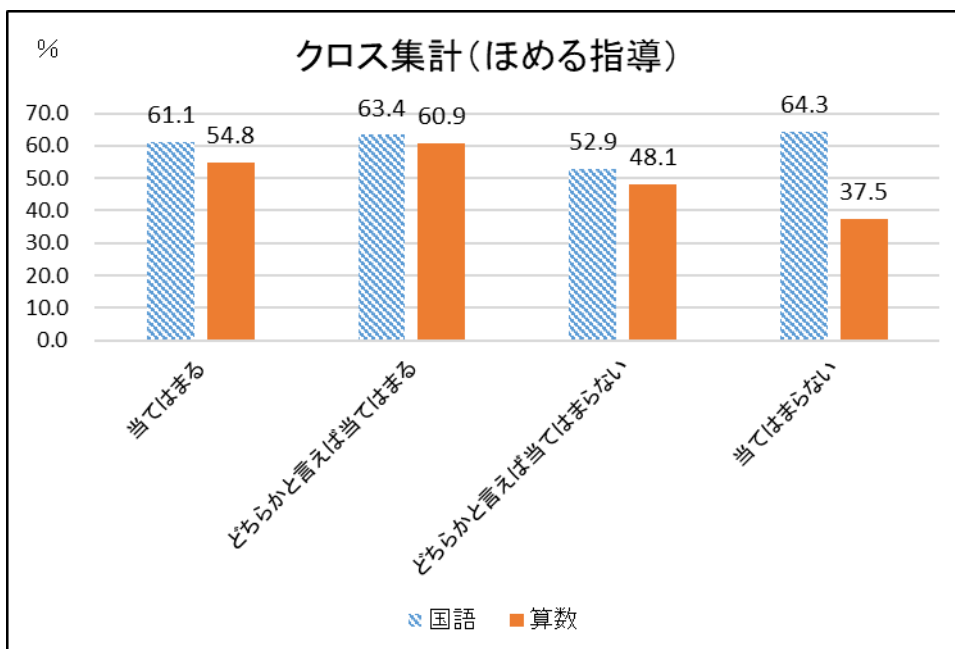
- 児童は、家庭学習の時間と平均正答率との間には、逆の相関関係が見られる。
- 生徒は、家庭学習の時間と平均正答率との間には、相関関係が認められる。
- いずれの教科とも「全くしない」と回答している生徒が一定数いることが課題である。

⑧ <「ほめる指導」と正答率の状況について>

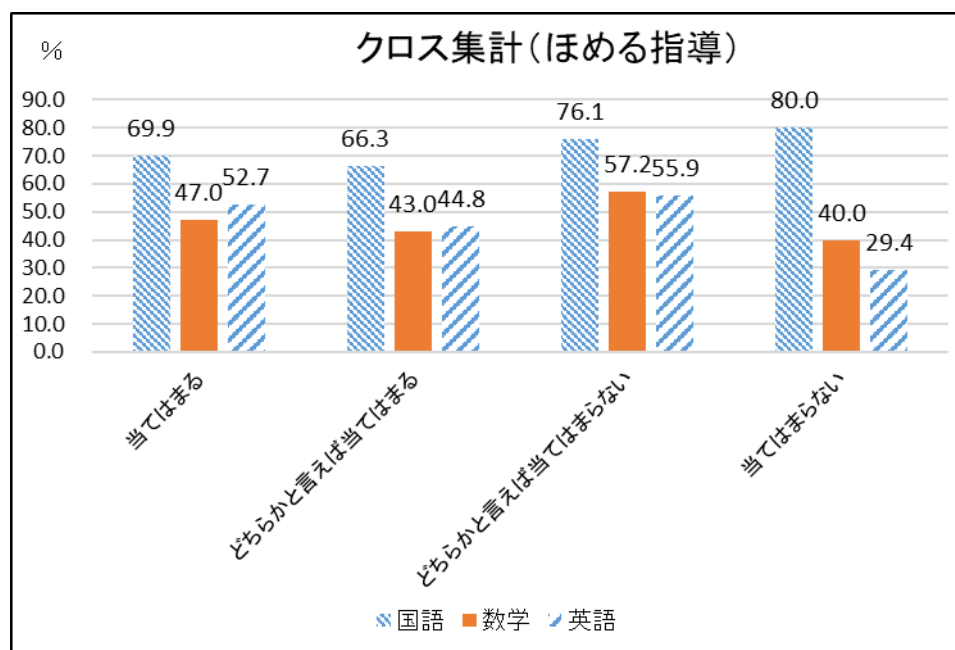
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(5) 中(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

《児童》



《生徒》



〔分析及び考察〕

- 児童は、算数においてほめ認められる指導と平均正答率の間にゆるやかな相関関係が見られるが、国語については、相関関係は認められない。
- 生徒については、国語で逆の相関関係が見られる。数学、英語については有意な相関関係は見られない。

学校では



魅力ある授業づくりを！

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ、授業の質的転換を図る～

児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学校環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態や教室での事実学び、学力や学習状況の把握に基づく、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

<授業実践のポイント>

- 国語科を要としつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- 全児童生徒に配備されたタブレットをはじめ様々な ICT 機器の活用や、体験的に学ぶ活動などを積極的に取り入れる。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。
- 個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。

指導力を高め合う組織づくりと学びの連続性のある取組を！

～ 小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質の高まりを図る～

子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、調査結果等を全職員や校種間で共有し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに、系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

<実践のポイント>

- 若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを図る。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」の不断の見直しを図り、取組の質的向上を図る～

小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのために、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

<実践のポイント>

- オンラインによる研修なども考慮しつつ、事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- これまで蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での情報交換や協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

家庭・地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点

地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率の高い傾向にあります。

さらに、家庭の蔵書数が多いほど平均正答率が高いことも報告されています。

また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」、「学校版教育環境会議」、「コミュニティ・スクール」など、様々な機会や場を通じて、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え、共に育てていきましょう。

<実践のポイント>

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書等に親しむ環境づくり（「親子で読書」、「新聞を読むこと」の習慣化など）
- スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！

教育委員会では、「ふるさと香美を愛し、夢や志を抱き、共に未来を切り拓く人づくり」をめざし、「第2期香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
- 町ホームページ、町広報紙などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、「町じゅう図書館」活動など）
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

◆ 問題文や各質問紙の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

